

# 情報発信「アンテナ」(第26回)

## 「買上割引情報収集システムの開発・導入」

株式会社銀座パーキングセンター

顧問 松澤 壮一

当社は、開かれた街(地域)で、各店舗・施設が買い物客・利用客に提供する駐車料金の買上割引サービスの付与情報を収集して、駐車料金に反映する仕組みを構築し、当社が運営する西銀座駐車場(東京都中央区銀座)で運用を開始したので紹介します。

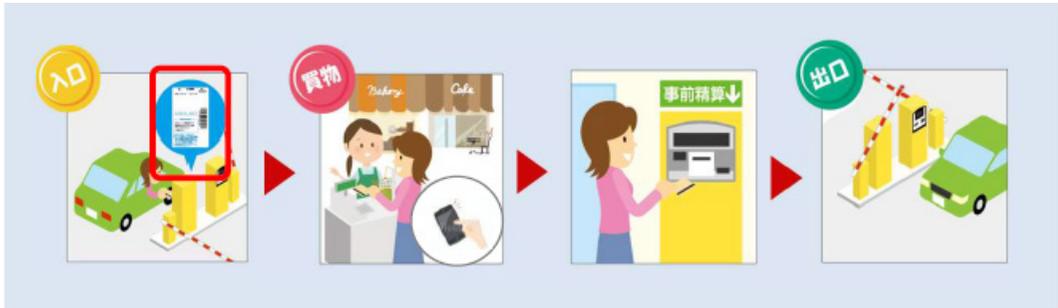
銀座の街の特徴は、高い地価、狭小宅地、狭隘道路で、街の開発を主導する大手デベロッパーはいません。このため、銀座の街は小振りのビルが多く、成り立ちや規模が異なる多様な店舗が多数集積して構成された商店街となっています。

当社は、会社のビジョンに「街のバックアップ駐車場」を掲げ、銀座の街における二つの機能(「交通機能(駐車場所の確保)」と「都市機能(街づくりとの連携)」)をバックアップすることを目指しています。そして、中央区及び銀座が目標とする「歩いて楽しい街 銀座」の考え方と連携して、地域内の附置義務駐車場機能を担い、銀座エリアにおける土地の有効利用や賑わいの連続性の確保など、包括的な街づくりをバックアップすることを目指しています。今回の買上割引情報収集システムは、会社ビジョンに基づき、開かれた銀座エリアの店舗・施設をロングテールにカバーできるようにするツールとして開発しました。現在、西銀座駐車場を利用している提携店舗・施設は80か所を超えます。現時点で30店舗以上において、今回のシステムを導入いただいております。順次拡大するとともに、新たな店舗等を提携先として受け入れることも可能な環境が整いました。

買上割引情報収集システムは、各店舗に今回開発したアプリを搭載したタブレット端末を配し、同端末で駐車券のバーコードを読み込みます。そして、施設の業態(店舗・ホテル等)や付与条件のニーズ(買上金額に合わせた設定等)に合わせて、タブレット端末上で、割引サービスをデジタルに提供します。開かれた街(地域)で利用者が買い物などをして得た複数店舗・施設からの駐車場の割引情報をアプリのサーバーに積み上げて収集する仕組みです。

収集した買上割引情報は、駐車場機器メーカーが算出する駐車料金の課金情報にマッチングさせることで、最終的に利用者が支払う駐車料金を算出する重要なデータになります。買上割引情報は、アプリのサーバーに蓄積した後、精算機等の駐車場サーバーに送信することで駐車料金の精算に反映されます。

## <買上割引情報収集システムのイメージ>



\*画像出典元アマノ株式会社

駐車場の課金ビジネスには、利用者が実際に支払う方法(現金・クレジットカード・QRコード決済等)を手掛ける決済会社や、入場から出場までの時間をもとに駐車料金の課金情報を算出する駐車場機器メーカーなど、多くのプレイヤーがありますが、買上割引情報を収集する部分を手掛けるプレイヤーはいないので、駐車場事業者とし自ら開発に取り組みました。

従来の買上割引情報を収集する仕組みは、POS連動システム、認証機、駐車サービス券を用いるなどの方法があります。

### (1)POS連動システム

商業施設等において、店舗がPOSシステムと連携する端末で駐車券に印字されたバーコードを読み込む等により、買上金額を集計(色々なやり方があるかと思いますが)して、駐車場の割引情報を収集します。収集された割引情報は駐車場システムのサーバーに送られます。

同一POSシステムが利用されていることが前提なので、開かれた街(地域)の店舗への展開は難しいと考えました。

### (2)認証機

駐車場機器メーカーの認証機を用いて、店舗が買上ごとに金額や割引時間を駐車券に記録・蓄積することで、駐車場の割引情報として収集されます。買上割引情報は、利用者が店舗で記録された駐車券を精算機に挿入することで駐車場システムに送られます。

店舗ごとに高額な認証機を設置する必要があり、開かれた街(地域)の店舗への展開は難しいと考えました。

### (3)駐車サービス券

買上金額等に応じて各店舗からサービス券を配布し、利用者がサービス券を受け取ることで、利用者の手元に駐車場の割引情報(サービス券の枚数)が蓄積・収集されます。買上割引情報は、利用者がサービス券を精算機に1枚ずつ挿入することで駐車場システムに送られます。

各店舗に予めサービス券を配置・補充しておく必要があり、開かれた街(地域)の店舗をロングテールにカバーする展開・維持には労力がかかります。また、駐車券は金券と同様なので、店舗側で厳格な管理が必要になります。

#### (4)今回のシステム

店舗がタブレットのアプリで駐車券のバーコードを読取り、買上に応じたサービス(付与割引時間を入力)を入力し、アプリのサーバーに蓄積することで、駐車場の割引情報が収集されます。買上割引情報は、アプリのサーバーから駐車場システムのサーバーに送信されます。店舗ごとにタブレットを配置する必要がありますが、すでに店舗管理で導入されている場合にはアプリのインストールのみで済みます。

最終的な姿は「デジタル駐車サービス券」とも言えますが、今回のシステムの本質は、開かれた街(地域)で利用者が買い物をして得た複数店舗・施設からの駐車料金の割引情報を収集する仕組みの構築であり、駐車サービス券のレス化を目指したものではありません。

また、駐車券そのもののレス化の動きもありますが、一般的な駐車場では、利用者が入場する際には、駐車場内を移動する車との事故を避けるために入場ゲートで一旦停止する必要があります。この際に、駐車券を発券機から取ることは、利用者にとって大きな負担や時間のロスにはならないと考えました。

本誌においては、技術的な詳細・仕様の紹介は割愛しますが、今回の買上割引情報収集システムのアプリの開発は、当社の駐車料金の精算システムを担っていただいているアマノ株式会社と連携し、当社でシステムの要件定義を策定してアプリの開発をお願いしました。

アプリを搭載するタブレットのOSのバージョンアップが想定されることも踏まえて、なるべくアプリ内の計算等はシンプルにすることとしました。また、店舗の現場においても、お客様に付与するサービス時間を入力するだけのシンプルな操作としました(店舗で付与時間の上限設定等の管理を行うことは可能。なお、入力とは該当する車が在車している場合に限られます)。

#### <アプリの操作例>





メニュー画面に表示された「バーコード読取」をタッチし、バーコード読取り画面へ進みます。



読取画面の線部(実アプリでは赤線)が駐車券のバーコードと重なるようにしてカメラでバーコードを読取ります。読取りが成功すると自動で割引画面に進みます。



付与する割引サービス時間を選択します。割引サービス時間を選択したら、「次へ」をタッチし、確認・登録画面に進みます。



割引サービス時間の付与内容を確認し、「登録」をタッチすると割引サービスの付与が完了します。